

6. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連		通信会社（営業担当）	・年末商戦と年末の新商品発表に向けて、来客増及び販売増が見込める。
		一般小売店〔事務用品〕（店員）	・年末商戦に加え、働き方改革に関連する商材の売上を見込んでいる。
(北陸)		一般小売店〔鮮魚〕（役員）	・冬場になればカニやブリ、タラなどの高額商材が出回るので売上は上がる。しかし、前年を上回るかどうかは自信がない。
		百貨店（営業担当）	・秋冬物商材の消費マインドは高まるとみられ、婦人ファッションやリビング関係、寝具などで売上をけん引し、好調さを保つと期待している。
		乗用車販売店（従業員）	・独自のイベントを続けて行っており、来客数と売上の増加を期待している。
		観光型旅館（スタッフ）	・8月中旬以降は予約状況が前年同月比で改善傾向にあり、個人客に動きがみられる。また、10月以降の予約状況は前年比90%台に回復しつつある。
		通信会社（職員）	・来年の国体関連イベントや北陸新幹線延伸工事などの動きが期待感を盛り上げている。
		通信会社（役員）	・今月の動向からみると、年末の商戦期に向けて例年どおり契約数が増えたと見込んでいる。
		商店街（代表者）	・気候の変化に伴って、薄手から厚手の衣料に変化していきそうである。極端な流行や変化はみられない。
		商店街（代表者）	・衣料品関連の量販店で値下げの動きがあり、客が低価格志向に流れれば、売上のアップや利益確保はますます厳しくなる。
		一般小売店〔精肉〕（店長）	・来客数は増えているが、1人当たりの購買数が少ない。このことから、売上については横ばいで推移する状態がもう少し続きそうである。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	・総選挙を控えて先行きが不透明である。
		百貨店（売場主任）	・10月は総選挙の影響で一時的に消費が冷え込むとみている。11月以降は選挙結果に左右されるだろうが、現時点での先行きは見通せない。
		百貨店（販売促進担当）	・皇室の婚約発表があり、消費マインドの改善が期待できる。しかし、総選挙で消費税増税問題がクローズアップされており、今後の見通しは厳しい。
		スーパー（店長）	・求人倍率の高さから、働く人の数は増加していると考えられる。しかし、個人の収入そのものが増えているわけではなく、個人消費が上向くとは考えにくい。
		スーパー（総務担当）	・どの食品スーパーも売上が伸びないため、特売価格が更に安くなっている。
		スーパー（店舗管理）	・特に良くなる要素は見当たらないが、天候が秋らしくなると秋の収穫や新米が後押しとなり、旬の食材への購買意欲が増加することを期待している。
		スーパー（統括）	・購買意欲が変化するような兆しはみられない。
		コンビニ（経営者）	・新タイプの煙の出ないたばこが大変好調に推移しており、今後とも売上は好調に推移すると考える。ただし、一番の主力である弁当類やおにぎり、寿司などといった食品関係が前年を下回る状態が続いている。本来はこれらが上向かないと良くなっていかない。売上高に関しては何とか前年を維持している状態である。
		コンビニ（経営者）	・良くなる要素がない。
		家電量販店（店長）	・今年は残暑が短く、主力の白物家電が前年に比べて伸びなかった。これから売上が伸びるとは考えにくい。
		家電量販店（本部）	・目新しい製品、あるいは消費を刺激する政策などがみられない。
	乗用車販売店（経営者）	・複数の新型車の投入があるが、販売量拡大はあまり期待ができない。	
	乗用車販売店（役員）	・総選挙の結果にもよるが、将来の消費税増税を見越して購買意欲の向上がみられない。	
	その他小売〔ショッピングセンター〕	・寝具類は朝晩の冷え込みで売行きが順調だが、日中の暑さのため秋物衣料の動きが弱く、前年を割っている。客は必要なものを吟味している様子である。	
	一般レストラン（店長）	・大きな流れは変わらないが、急な総選挙の影響を懸念している。	
	一般レストラン（統括）	・10月の歓送迎会予約と年末の忘年会予約が、例年より少し早めに入っている。またテイクアウト需要は月を追うごとに増えている。しかし、平日の店内客は微減しており、トータルでは変わらない状態である。	

	観光型旅館（経営者）	・10月の先行予約は、前年比で約10%ほど減少している。11月以降の観光シーズンや忘年会シーズンに期待している。
	都市型ホテル（スタッフ）	・販売単価は前年を上回っていない。生鮮食材や輸入食材、ビールなどの仕入価格が上がっているが、販売価格に転嫁できない。値上げをすると来客数が顕著に減少する。客の購買意欲に慎重さがみられる。
	都市型ホテル（役員）	・宿泊部門は今後も堅調に推移するとみている。宴会部門は大型のコンベンションと企業の周年行事の受注があるが、婚礼の少人数化と1組単価の下落が顕著である。ホテル全体での景気動向は変わらないと考える。
	旅行代理店（支店長）	・特に目立った動きがみられない。
	タクシー運転手	・週末を中心に、観光客は今月より増えるの見込んでいる。しかし、平日はほとんど期待できないため、相対的には変わらないと考える。
	通信会社（営業担当）	・他社契約からの新規乗換えが増加しつつあるが、必要最低限の安いコースを選ぶ客が多く、前年と比べて売上に大きな差がみられない。
	通信会社（役員）	・固定通信サービスの事業者間競争が、今後更に激しくなるとみられる。しかし、市場全体の伸びがあまり期待できないなかで、契約者の獲得数に大きな変化はないと考える。
	美容室（経営者）	・購買意欲に大きな変化はみられない。
	住宅販売会社（従業員）	・前月同様に大きな動きがほとんどない。引き合いがあるものの、実際の成約には結び付かないのが現状である。
	住宅販売会社（従業員）	・契約までに今まで以上の労力が必要であり、対応が難しい客が増えている。イベントなどへの来場者数は増えないものの、コンスタントに来場はあるので、粘り強く客への対応ができるかどうかで成果が大きく変わる。
	住宅販売会社（営業）	・消費税増税まで目立った動きがあるとは考えられない。
	商店街（代表者）	・中間層の衰退から考えて、今までの商品構成では購買需要をつかみきれていないようである。衣料品では生産側の体力が大分落ちており、新しさに欠けて魅力に欠けるという負のスパイラルに入ってきている。
	コンビニ（店舗管理）	・人手不足のため求人広告費用が大幅に増加している。時期的に採用が難しく、来春までは広告費の垂れ流し状態であっても、求人を持続させるを得ない。
	衣料品専門店（経営者）	・地方のファッション専門店は、構造的な不況に陥っており、生き残りをかけて苦しんでいる。
	家電量販店（店長）	・現在のテレビは、来年から始まる4Kや8K放送に対応したチューナーが内蔵されていないため、年末の販売では買い控えが発生する。
	自動車備品販売店（役員）	・5年前の新車販売増から考えて、タイヤ交換時期の需要期待は高まっている。しかし、総選挙や北朝鮮問題など先行き不透明に加え、タイヤ値上げの影響によって低価格商品を希望する客の動向から、ますます景気は悪くなると考える。
	その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・前年に好調だったシネマの反動が冬まで続くとみられるため、来客数の低迷により他業種の売上減が見込まれる。客単価に大きな変動はないが、衣料品の購入率が伸びない傾向は今後も続く。服飾雑貨やホビー用品など衣料品以外の売上を確保していく必要がある。
	スナック（経営者）	・国内外における有事などで状況は悪くなる可能性がある。
	旅行代理店（所長）	・10月の旅行シーズン中に総選挙があるため、旅行を控える傾向にならないか懸念している。
	タクシー運転手	・10月は総選挙があることから、夜は人出がなくなり、ますます静かになる。
	テーマパーク（役員）	・北陸新幹線開業効果が落ち着きをみせ、向こう3か月の予約状況を前年同月比でも、団体客を中心に約1割近い減少になる。
	競輪場（職員）	・予想以上に売上が減少傾向にあり、上昇に転じる見込みも要素もない。しばらくは下降線が続くと考える。
	その他レジャー施設（総支配人）	・超低価格の競合店が1キロ圏内に営業を始めるので、その影響が間違いなく出てくる。
	x	-
企業 動向 関連  (北陸)		-
	プラスチック製品製造業（企画担当）	・今後の受注見通しは堅調であり、当面はこの状況が続くとみている。
	金属製品製造業（経営者）	・2～3か月先の受注量を見て、やや良くなると考えている。
	通信業（営業担当）	・中小企業向けの通信事業が比較的順調である。課題解決型の営業によって客のニーズにマッチしてきたためとみられる。

	司法書士	・国体関連や北陸新幹線延伸による駅前再開発など、建設業では活発な動きがある。
	食料品製造業（経営企画）	・現状より受注が増加しても、労働力確保が難しく供給量に限界がある。
	繊維工業（経営者）	・為替の変動により、スポーツ向け衣料の輸出に期待している。しかし、国内消費には相変わらず先行きに不安がある。
	繊維工業（経営者）	・10月は来春向け商材の受注時期であり、やや数量が増える見通しである。
	一般機械器具製造業（経理担当）	・海外を中心に受注量は高止まりを維持している。しかし、国内においては政治面で、海外においては地政学的リスクが更に高まっており、今後の受注量は不透明感がより強くなっている。今後は事業面でリスク分散できる体制へとスピードを上げて取り組む必要がある。
	精密機械器具製造業（役員）	・相変わらず為替変動への不安はあるものの、今のところある程度の範囲に収まっている。大きく上向いていくとは見込めないが、ほぼ現在の状況のまま推移すると考える。
	建設業（経営者）	・今後の発注工事では、めぼしい物件がない。
	建設業（役員）	・首都圏以外は依然として受注競争が厳しく、今後の発注量次第で更に価格競争が激しくなると考える。
	輸送業（配車担当）	・現在の状態がしばらく続くと思われるが、北朝鮮などの状況変化がみえず先行きに対して不安材料がある。
	金融業（融資担当）	・企業の投資意欲は依然として高く、資金需要も相応にある。製造業の設備更新のための投資や小売業の改装投資など、需要に基づいた前向きな投資は続くと考えますが、総選挙後の政治状況や政策の変化は流動的であり見極めが難しい。
	不動産業（経営者）	・個人客に対して期待感があつたが、意外に話が少ない。また、同業者によると法人関係も少し動きが悪いという話である。
	新聞販売店〔広告〕（従業員）	・今月も前年売上を上回ることができなかった。月の前半は好調だったが、衆議院解散が固まった20日以降から、広告出稿量はブレーキがかかったように失速している。
	税理士（所長）	・変わらないと回答したが、実際にはわからないというのが正直なところである。総選挙が控えており、一時的には社会は活気付くと考えるが、総選挙の結果によってはいろいろな政策が見直しとなる可能性もある。そうなるとう公共工事やいろいろな政策が一時中断する、あるいは滞ることになると、マイナスに転じる可能性がある。
	一般機械器具製造業（総務担当）	・世界情勢の不安定さと国内の政治状況によって、設備投資に対する意欲が下がる可能性がある。
	金融業（融資担当）	・秋からの紅葉シーズンに向けて、観光業界や飲食業は期待している。しかし、総選挙で客の動きは鈍くなると考える。
	x	-
雇用 関連 (北陸)	-	-
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・就職者の数が増える状況が、この先もしばらく変わらないと考える。
	人材派遣会社（役員）	・有効求人倍率の高さを背景に、いろいろと探りを入れて比較検討する求職者が多い。
	求人情報誌制作会社（編集者）	・大きな雇用につながる動きがない。
	職業安定所（職員）	・業績が良くなるという事業所がある一方で、依然として先行きを不安視している事業所がある。
	職業安定所（職員）	・当月は、製造業において人手不足感が強く表れる数字となっている。人手不足が続いている状態ではあるが、パブル期のように手放して賃金を上げるとか、労働条件を上げるといった状況にはなっていない。人手不足でありながら労働条件の改善については、なかなか進まないというのが現状である。企業としては先行きに何らかの危惧があり、慎重になっているようである。
	民間職業紹介機関（経営者）	・求人のオーダーがあっても紹介できる人材が少ない。その中から更にマッチングさせるため、状況はより厳しくなっている。
	学校〔大学〕（就職担当）	・9月に入ってから、次年度採用者向けの合同企業説明会が大学内で実施される。その問い合わせが例年より多く、次年度に向けた動き出しが早くなっている。
	-	-
	x	-